

決済システムの強化を考える — アジアにおける決済の円滑化と資金循環の活発化 —

セッションⅢ：「総括」

「アジアの資金フローの現状とチェンマイ・イニシアティブ等の最近の動き」

財務省国際局地域協力課長
吉田 正紀

概要

アジア金融危機以降、アジア経済は順調に成長を遂げてきた。キャッシュフローも増加し、地域内の繋がりも一層深化しつつある。アジア域内の各国はこれまで成長を享受するだけでなく、ASEAN+3（ASEAN（東南アジア諸国連合）及び日中韓）の枠組みの下、過去の金融危機を教訓にチェンマイ・イニシアティブ（CMI）、アジア債券市場育成イニシアティブ（ABMI）といった地域金融協力を推進している。

CMI は、域内のある国が外貨の支払いに支障を来すような流動性の困難に直面した際に、他国が通貨の交換（スワップ）により短期的な外貨資金の融通を行うものである。現時点において、8 か国間（日中韓+インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ）で16本の取極が締結されており、規模は合計580億ドルに達している。

現在、CMIについては従来の二国間の取極を一本化する作業（CMIのマルチ化）が行われている。マルチ化により、CMIの発動の迅速化・効率化が図られ、ASEAN+3の全てのメンバー国がCMIに参加することとなる。2008年のASEAN+3財務大臣会議においては、マルチ化の資金規模を少なくとも800億ドルとすること、メンバー国の経済・金融情勢に関するサーベイランスの強化などが合意された。

米国のサブプライム問題に端を発する世界的な金融市場の混乱は実物経済に影響を及ぼしつつある中、一部アジアの中ではドル資金調達の逼迫なども見られており、チェンマイ・イニシアティブの強化は重要性を増している。昨年12月には日韓の通貨スワップ取極が300億ドルの規模に拡大され、日中韓サミットにおいては、マルチ化の早期実現についてコミットがなされた。

ABMIは、アジア通貨危機が、アジア域内の金融機関が外貨建て短期資金を調達し、それを現地通貨建ての中長期の投融資として活用する構造からくる脆弱性により生じたとの反省を踏まえ、アジア域内の民間貯蓄を域内の経済発展に必要な投資に活用することを目的とした取組である。2008年のASEAN+3財務大臣会議においては、アジア債券市場の更なる発展に向けて、ABMI新ロードマップが合意された。この新ロードマップは、①4つの主要分野（現地通貨建て債券発行の促進、債券の需要の促進、規制枠組みの改善、債券市場関連インフラの改善）に焦点、②参加国の自助努力を促す仕組みの確保、などを柱としている。